

【ご参考資料】

2015年8月24日

日本株式市場の下落について

ポイント1 日本株は大幅下落

8月21日金曜日、日本株式市場では主要指数が大幅に下落しました。

TOPIX（東証株価指数）は20日比で3.1%下落、8月10日に付けた高値（終値ベース）からは7.0%の下落となり、今年度の上昇分の大半を失いました。

また、日経平均株価も20日比で3.0%安と大幅に下落し、同じく今年度の上昇分の大半を失いました。

ポイント2 中国製造業の景況感が予想以上に悪化

きっかけは、8月の中国の製造業の景況感を示す財新製造業PMI（購買担当者景気指数）速報値が0.7ポイント悪化したことと見られています。6年5ヵ月ぶりの低水準に落ち込み、中国経済の減速が世界経済の成長にブレーキをかけるとの見方が強まりました。

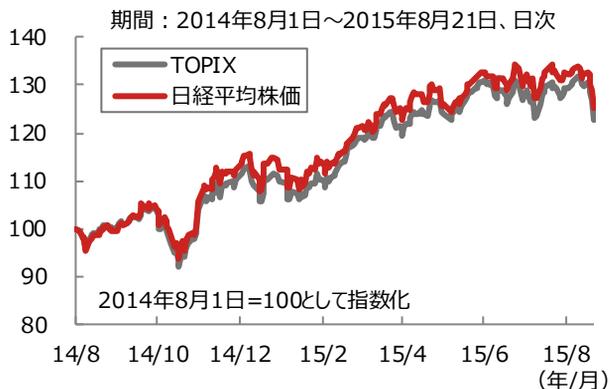
中国景気の影響を強く受けると考えられている鉄鋼株指数は6月に付けた高値から24%超の下落となっており、昨年10月の水準まで下落しました。

ポイント3 業績は堅調であり、落ち着き処を待ちたい

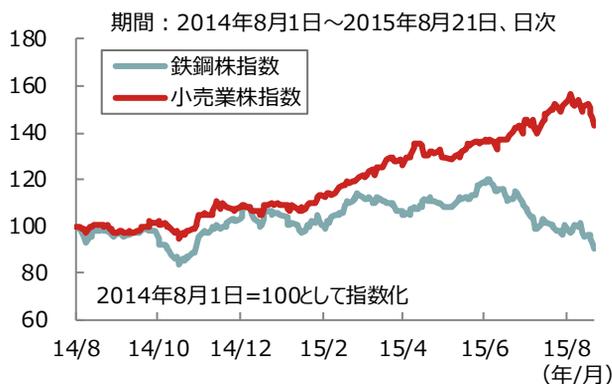
一方、インバウンド銘柄として好業績に支えられながら大幅に上昇してきた小売業株指数は、8月初旬に付けた年初来高値からは8.7%の下落に留まっており、年初来の上昇率も依然として30%程度となっています。

日本株全体の今年度の増益率は2ケタ成長が予想されています。株価バリュエーションの割高感もありません。既に出揃っている第1四半期の業績も順調で、このままの調子で行けば通期の上方修正も期待されます。株価は年度後半に向けて持ち直していくと思われ、世界的株安の影響が過ぎ去り、落ち着くのを待ちたいところです。

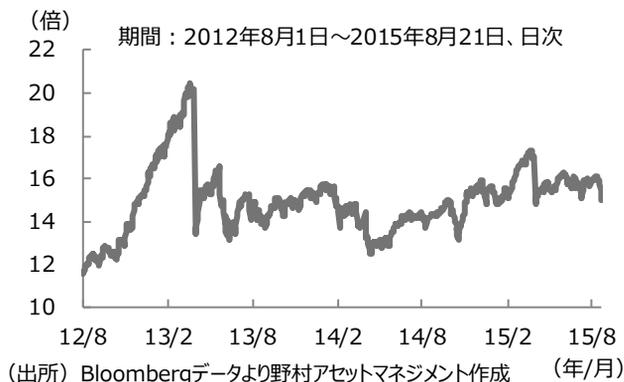
【図1】TOPIXと日経平均株価の推移



【図2】TOPIX：鉄鋼株指数と小売業株指数の推移



【図3】TOPIXの予想PER（株価収益率）の推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。